

※最新版は、

[https://www.nise.go.jp/nc/report\\_material/research\\_results\\_publications/leaf\\_series](https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series)  
から直接ダウンロードできます。



# 特別支援教育リーフ Vol.22

## 知的障害特別支援学級における 教育課程編成と授業づくり



独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

インターネットによる講義配信もあります。詳しくは「[NISE 学びラボ](#)」へ



## 知的障害特別支援学級の教育課程や授業について

知的障害特別支援学級では、知的障害のある児童生徒の学習上の特性を踏まえた上で、児童生徒一人ひとりの実態に応じた授業を行います。また、児童生徒が自ら見通しを持って学習に取り組めるよう、学習環境を工夫したり、生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際的な状況下で指導したりしながら、成功経験を増やしていきます。

なお、授業においては、児童生徒の興味・関心、得意な面に着目し、教材・教具等を工夫するとともに、目的が達成しやすいように、段階的な指導を繰り返し行うことが大切です。

- ◆知的障害特別支援学級の教育課程について確認してみましょう
- ◆知的障害のある児童生徒の学習上の特性を確認してみましょう
- ◆知的障害のある児童生徒が学びやすい環境や教材を確認してみましょう

## 知的障害特別支援学級の教育課程について

特別支援学級は、障害のある児童生徒を対象として特別に編制された学級です。特別支援学級の教育課程は、小・中学校学習指導要領を原則としていることから、通常の学級と同じように、各学校の学校教育目標を踏まえて編成します。

しかし、特別支援学級では、障害のある児童生徒を対象としていることから、通常の学級で行われる教育課程をそのまま適用することが難しい場合があります。そこで、特に必要がある場合は、学校教育法施行規則第138条に示されている「特別の教育課程」を編成することができます。「特別の教育課程」では、児童生徒の実態や障害の程度などを考慮した上で、自立活動を取り入れることはもとより、児童生徒の障害の程度や学級の実態等を考慮した上で、各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えたり、特別支援学校（知的障害）の各教科に替えたりします。

なお、「特別の教育課程」を編成する場合でも、特別支援学級は小・中学校の学級の1つであることから、学校教育法に定める小・中学校の目的及び目標を達成するものでなくてはなりません。

### 「特別の教育課程」の編成の手順

#### ①学級の児童生徒の実態把握

- 在籍児童生徒一人ひとりの障害の状態や興味・関心などを把握する。
- 小学校及び中学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容について、児童生徒の習得状況や既習事項を確認する。

#### ②「特別の教育課程」の検討

- 当該学年の学習が困難な場合は、当該学年より下学年、さらに特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示されている知的障害特別支援学校の各教科の目標及び内容に替えることを検討する。
- 自立活動を必ず取り入れる。
- 特別支援学校（知的障害）の各教科の目標及び内容に替えた教育課程を編成する場合、各教科等を合わせた指導も取り入れることを検討する。



## 知的障害のある児童生徒の学習上の特性について

知的障害のある児童生徒は、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面に生かすことが難しい場合があります。そのため、学習活動においては、実際の生活場面に即しながら、繰り返し学習することにより、必要な知識や技能等を身に付けられるようにする継続的、段階的な指導が大切になります。

また、成功体験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことが多い場合があります。そのため、学習活動の中で細やかに認め、称賛することで、自信や主体的に取り組む意欲を育むことが大切になります。さらに、抽象的な内容の指導よりも、実際的な生活場面の中で具体的に思考や判断、表現できるようにする指導が効果的になります。

## 例えば、算数・数学の授業では、こんな工夫が考えられます

知的障害のある児童生徒に対しては、学習内容が具体的に日常生活のどのような事象を意味しているのか理解を促す必要があります。例えば、「12個のりんごを4人で分けると1人何個もらえるか」といった除法の計算をする際、りんごの絵が書かれたカードを並べて、実際に絵カードを動かしながら計算をすることが考えられます。

さらに、具体物を操作するだけでなく、助数詞など（個・本・cm）の言葉を書いたり、読んだりすることで、学習内容の意味の理解を促したり、概念形成を促したりする工夫が大切です。また、教材については、児童生徒が興味・関心を示すものを用いることが大切です。例えば、児童生徒が好きなアニメや漫画のキャラクターの絵を用いて数の計算をしたり、ICT機器の操作が得意な児童生徒がタブレットを使用して、図形の学習をしたりすることなどが考えられます。



### 【算数・数学の指導例】

- ・教師がピザの絵を提示し、「ピザを同じ大きさに2つに分けて」と言う。
- ・子どもは、ピザの絵を半分に折り、ハサミで切る。

用意するもの

- ・ピザの絵
- ・はさみ
- ・ワークシート

2等分が分かる「ピザ」

- ・子どもは、切ったピザの絵を、ワークシートの右側の絵に合わせて貼る。
- ・教師は、「ピザを同じ大きさに2つに分けたね。これを、2等分というよ」と伝え、子どもは「2等分」と書く。

・実際に切ることで、2等分を実感できるようにする。

ピザの絵を同じ大きさに2つに切る

ワークシート右側に貼る

2等分と書く

☆さらなる理解のために☆

サポートキット「すけっと」を活用してみよう

知的障害特別支援学級の授業づくり

『すけっと』がお助けします！

2019～2020年度 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 基礎研究「知的障害特別支援学級担当者のための授業づくり支援」研究成果集

知的障害特別支援学級担当者のための授業づくりサポートキット (小学校編) すけっと Sukett

次のページから、『すけっと』の中身を少しだけ紹介します！

さらに詳しい内容は、Webページ「すけっと ばすけっと」へアクセス！

「すけっと ばすけっと」には「すけっと」ダウンロード版に加え、「すけっと」紹介動画や、知的障害教育に関する基礎的な内容を解説した「すけっとどうが」などのコンテンツが揃っています。

<URL>  
[https://www.nise.go.jp/nc/study/others/disability\\_list/intellectual/sk-basket](https://www.nise.go.jp/nc/study/others/disability_list/intellectual/sk-basket)

もくじ

- これだけは知っておきたい！実践編
  - 授業づくりにあたって、あつてほしい実践例について解説しています。 1
  - 知的障害のある児童の発達段階について解説しています。 2
  - 知的障害のある児童の「認知力」の観点から。 10
  - 知的障害のある児童の「認知力」の観点から。 14
  - 授業づくりの具体的なポイント解説。 24
  - 読者へ：授業づくりのポイント解説。 32
  - 読者へ：授業づくりのポイント解説。 37
  - 読者へ：授業づくりのポイント解説。 37
- もっと知りたい！理論編
  - 知的障害特別支援学級に関する基礎的な知識を解説しています。 47
  - 教育課程の編成。 47
  - 学習評価の基本的な考え方。 52
- すぐに役立つ！資料編
  - 授業づくりにあたって、あつてほしい実践例の事例を掲載しています。 59
  - 実践例。事例・読者の声。 59
  - ウェブサイト「すけっと」の活用。 62
  - 読者へ：知的障害のある児童の発達段階における活用。 67
  - 読者へ：事例。 67
  - 読者へ：事例。 67
- NISE授業づくりサポートシートでばっちり！事例編
  - NISE授業づくりサポートシート（導入編）。 68
  - NISE授業づくりサポートシート（実践編）。 68
  - 事例1：国語「数と式」。 68
  - 事例2：算数「数と式」。 68
  - 事例3：算数「数と式」。 68

すけっとの主な使い方

知的障害特別支援学級の授業づくりが知りたい

NISE授業づくりサポートシートを使った授業づくり

実践編

知的障害の特性

実践編

教室環境や教材の例

実践編

指導事例

実践編

授業づくりの具体的な手順

実践編

教育課程や学習評価

実践編

その他役立つ情報

実践編

毎年数回、NISE授業づくりサポートシートを使った授業づくりを行うと、知的障害特別支援学級の授業づくりの力が伸びます。ぜひ、活用してください。

校内の知的障害特別支援学級の授業の質を高めたい

NISE授業づくりサポートシートを  
「すけっと どうが」を  
使った実践例

NISE授業づくりサポートシートを使った実践例は、知的障害特別支援学級の授業づくりの質を高めたい。また、動画講座は校内研修に活用できます。

各地の知的障害特別支援学級の授業の質を高めたい

研修でのNISE授業づくりサポートシートの活用

研修でのNISE授業づくりサポートシートの活用

NISE授業づくりサポートシートは、研修で授業づくりに関する実践を行う際の教材として活用できます。

「すけっと」は、知的障害特別支援学級における授業づくりをサポートするツールで、「実践編」「理論編」「資料編」「事例編」に分かれています。「実践編」では、知的障害のある児童生徒への授業づくりのポイント解説等、「理論編」では、教育課程の編成や学習評価の基本的理解等、「資料編」では、実際の教室環境や教材・教具の工夫の事例等を掲載しています。さらに「事例編」では、授業づくりに活用できるツールや国語と算数の授業例を紹介しています。ぜひご活用ください！

＜参考文献＞

- 国立特別支援教育総合研究所（2021）知的障害特別支援学級担任のための授業づくりサポートキット（小学校編）
- 栃木県総合教育センター（2018）知的障害特別支援学級における算数・数学科の指導の充実～領域「数と計算・数と式」～
- 国立特別支援教育総合研究所「すけっとばすけっとマルチメディアウェブサイト」

※「すけっとばすけっと」は、知的障害特別支援学級を担当する先生をサポートするツールを集めたウェブサイトです。「知的障害特別支援学級担当者のための授業づくりサポートキット（小学校編）すけっと(Sukett)」に関連するコンテンツをご覧ください。

すけっと Sukett

